

公募上映作品

【DISC 1】



『福島で見たことと聞いたこと～浪江町「希望の牧場」編1～』(15分)
制作: SUPLEX CH 撮影期間: 2013/5/5~6 場所: 福島県双葉郡浪江町
浪江町には放射能に汚染された立ち入り禁止の警戒区域内で家畜の殺処分に対し、牛を飼育し続ける牧場が10軒あります。なぜ、身の危険を顧みず「売り物」にならない牛たちの面倒を見るのか。希望の牧場・ふくしま代表を務める吉沢正巳さんにお話をうかがいました。



『福島で見たことと聞いたこと～浪江町「希望の牧場」編2～』(15分)
制作: SUPLEX CH 撮影期間: 2013/5/27 場所: 東京都渋谷区
福島県浪江町の警戒区域で牛の殺処分に対し、今なお350頭の牛を飼育する「希望の牧場・ふくしま」代表の吉沢正巳さん。渋谷ハチ公前での魂の訴え。一言一言、想像力を持って感じてください。福島で何が起きたのか。何が行われているか感じてください。そして、考えてください。



『福島で見たことと聞いたこと～富岡町編1～』(10分)
制作: SUPLEX CH 撮影期間: 2013/3/24~25 場所: 福島県富岡町
双葉郡富岡町は2013年3月、放射能汚染による警戒区域が再編になった。町は立ち入ることはできても宿泊できない区域と、許可がなくては立ち入ることもできない区域に分断された。広野町と楢葉町の除染廃棄物仮置き場、そして、富岡町の皆さんが何を想い、考えているのかお話をうかがった。



『福島で見たことと聞いたこと～富岡町編2～』(9分)
制作: SUPLEX CH 撮影期間: 2013/3/25 場所: 福島県富岡町
双葉郡富岡町は福島第一原発事故による放射能で立ち入ることができなくなっていた。町は2013年3月、避難指示区域の見直しにより避難指示解除準備区域、居住制限区域、帰還困難区域に分けられた。被害に遭いながらも全員が原発反対ではない複雑な胸中。これは福島だけの問題ではない。



『福島で見たことと聞いたこと～富岡町編3～』(13分)
制作: SUPLEX CH 撮影期間: 2013/3/25 場所: 福島県富岡町
福島県双葉郡富岡町は2013年3月25日、警戒地区を解除され、一部自由に立ち入りができることになった。津波で破壊された富岡駅の前で、現在、ご家族で栃木に自主避難されている大山さんに、放射能のこと、避難のことなどについて話を聞いた。



『福島で見たことと聞いたこと～富岡町編4～』
制作: SUPLEX CH 撮影期間: 2013/3/25/~4/13 撮影場所: 福島県富岡町
時間: 12分 カテゴリー: ストーリー
富岡町は放射線が高い地域であるのになぜ警戒区域を解除したのか。解除当日の3月25日に町で出会った方々にお話をうかがった。4月には、夜の森の桜を見に行った。何もかもが簡単に解決できる問題ではない。これは自分たちが生きている国で起きている問題だ。決して「他人事」であってはいけない。

【DISC 2】



『いわき市久ノ浜 漁師さんの声 2011.10.3』(7分)

制作:東条雅之

いわき市久ノ浜の漁港(福島第一原発から南約 30 キロ)より。「船を直すまでは張り合いがあった」と話す漁師さん。生きがいである漁に出れず、がれきの撤去をして過ごす日々は退屈だと言います。「うちは歳だからいいけど、20 代の船に乗ってくれる息子が心配」ある漁業関係者は今の状況を深刻に捉えていました。



『飯館村 故郷を追われた人たちの声 2011.10.4』(9分)

制作:東条雅之

「あと帰って来れるか分かんねえべなあ」と話すのは、飯館村で生まれ育った 81 歳のおばあちゃん。福島市の病院に行くために家に立ち寄ったところでした。今は家族バラバラに避難されているとのことでした。「残念でかなわねえなあ」その言葉には、原発で故郷を奪われた悲しみがあふれていました。



『原発震災を経験して 福島県の若手漁師の想い 2011.10.21』(10分)

制作:東条雅之

福島原発から南約 30 kmのいわき市久ノ浜漁港にて、若手漁師の石井宏和さん(兄)と洋平さん(弟)にお話を伺いました。



『警戒区域に生きる 松村直登さん』(9分)

制作:東条雅之

家は福島第一原発から約12km。警戒区域の中に一人で留まり続ける松村直登さん。その理由は、置いて行かれた動物たちを生かすためだった。



『原発いらない福島の女たち 国会正門かんしょ踊り～官邸前』(12分)

制作:金子遊 撮影期間:6/29/2012 場所:国会議事堂前

2012年6月29日(金)に、「原発いらない福島の女たち」と、全国から集まった女性が行なったアクションを記録しました。行動を起こした勇気あるお母さんたち、女性たちの発言に耳を澄まし、その「かんしょ踊り」(会津地方)を見て下さい。経済産業省前の脱原発テント⇒参議院会館⇒国会正門⇒首相官邸前のデモへと移動します。官邸前では、もちろん 10 万～20 万人が集まったとされる脱原発巨大デモに合流しました。



『ヒナンのキモチ』(9分)

企画:井桁大介 制作:井桁大介、柴田麻里、武藤知佳

(OurPlanetTV 映像制作ワークショップ作品)

2011年3月11日の東日本大震災後に起こった福島第一原発事故。政府は、避難区域-を原子力発電所から半径 20 キロメートル圏内と定めた。しかし、ネットなどでさまざまな情報が流れ、避難区域外の住民も不安に包まれた。混乱状況の中、自らの決断で”ヒナン”を選択した母たちを取材した。

【DISC 3】



『3・11メルトダウン 福島原発取材の撮影から』Part1(11分)

映像撮影: 綿井健陽

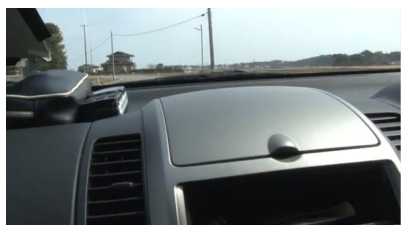
3月12日に東京を出発して福島第一原発を目指した途中の様子です。当時のラジオ・テレビニュースが何を伝えていたのかも含めてご覧ください。



『3・11メルトダウン 福島原発取材の撮影から』Part2(15分)

映像撮影: 綿井健陽

地震発生から2日後の3月13日の福島第一原発近くの双葉町周辺の様子です。異なる3台の放射線測定器で計測しながら移動しました。同日午前10時42分には双葉厚生病院前で1000マイクロシーベルト/時以上(当時持参した放射線測定器ではこれ以上計測できない最高数値)を記録しています。



『3・11メルトダウン 福島原発取材の撮影から』Part3(15分)

映像撮影: 綿井健陽

陥没した道路、倒壊した家屋、津波が襲来した田畑を回中、情報を何も知らされないまま車で自宅に荷物を取りに戻る住民たちと出会う。一方、ラジオでは枝野官房長官(当時)はそれまで同様の政府発表・見解を流していた。



『福島市、飯館村、本宮市から見沼の畑へ～見沼の炉辺から、福島を想う』(18分) 制作: 山川宗則

象徴的な「フクシマ」という物語ではなく、具体的な営みを通じて語られるそこに在る人たちの言葉、表情、身体を映像からでも受け取って欲しい。「福島」ナンバーの車は画面の奥に去っていく。その視界の先に福島県に住む人々の生活が今なお営まれ続け、福島第一原発が間違いなくあることを、画面の手前にいる私は見つめ続けなければならない。



『福島県いわき市小名浜 2011年4月3日』(6分)

制作: 山川宗則

福島映像祭 2013

【DISC 4】



『浪江 2013年6月』(40秒)

制作:遠藤優子 撮影期間:2013/6/14 場所:福島県浪江町
再編後の浪江町の様子を撮影した。津波被災地の請戸地区は手つかずのままだった。



『4月14日花見山観光客で賑わう福島駅の様子』(50秒)

制作:遠藤優子 撮影期間:2013/4/14 場所:福島駅
花見山へ向かうバスを待つ人たちで賑わう福島駅前の様子を撮影した。



『福田十二神楽~2013年5月の祭~』(11分)

制作:岩崎孝正 撮影期間:2013/4/30、5/23 場所:相馬郡新地町福田地区
福島県相馬郡新地町は、地震、津波、原発事故被害の周辺にある。子どもに伝統の舞を伝える光景は、人々の営みの美しさを教えてくれる。福田十二神楽は、法印系の神楽だ。五月の祭祀は、八人の子どもたちが十二の演目の神楽を披露した。



『なみえ復興塾 2012年』(25分)

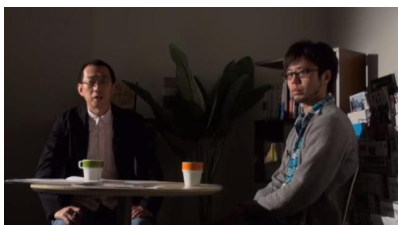
制作:まちづくりNPO 新町なみえ 撮影期間:2012/5/12~2012/8/18
場所:浪江町、二本松市・福島市・原町・東京(浪江町民の避難先)
復興へ向けての取り組みを続ける住民グループが浪江について考え議論する場「なみえ復興塾」。住民、浪行政、専門家の協同で、「市民版復興ビジョン・計画・提言」の発信に取組んだ。

【DISC 5】



『福島の小中学生たちが政府へ訴え』(2分)

制作:OurPlanetTV 配信日:2011年8月17日
2011年8月17日、福島の小中学生たちが政府にむけたメッセージ。



『「死ぬの覚悟した」~福島原発の元運転員、初証言』(25分)

制作:OurPlanetTV 配信日:2013年8月12日
東京電力福島第一原子力発電所事故当時、中央制御室(中央操作室=ちゅうそう)で事故対応にあっていた元運転員(オペレーター)が事故当時の状況を語った。運転員としては初の証言となる。



『福島からあなたへ・武藤類子さんへインタビュー』(28分)

制作:OurPlanetTV 配信日:2012年2月9日
去年9月19日に東京で6万人を集めた「さようなら原発集会」。集会の最後を締めくくり、福島の思いを読み上げたのは、チェルノブイリ原発事故以降20年以上にわたって、反原発運動に関わってきた福島の武藤類子さんだった。多くの人の感動を呼んだこのスピーチが、1月、一冊の本となった。「福島からあなたへ」。あのメッセージにどんな思いが込められたのか。武藤類子さんにお話を聞いた。

【DISC 6】



『主権在民～フクシマから東海村へ』(93分)

制作: 西山正啓 撮影期間: 2011/11~2012/06

場所: 東京・福島・茨城東海村

2011年11月経済産業省前での全国の女たちの抗議行動から福島～茨城県東海村を往復しながら10ヶ月間取材を重ねた。福島原発訴訟団・武藤類子団長の告訴に至る活動の軌跡と、「脱原発自治体」をつくろうと懸命に奔走する人々を記録。

【DISC 7】



『脱原発いのちのメッセージ』(41分)

制作: 西山正啓 撮影期間: 2011/11~2012/06

九州電力本店や佐賀県庁前などで行われた抗議行動の記録。



『子どもの日に原発は似合わない』(34分)

制作: 西山正啓 撮影期間: 2011/11~2012/06

2012年子どもの日、日本の全原発が停止した。4月には経産省前テント広場から大飯原発再稼働を阻止するためのハンスト行動が呼びかけられた。新たな大衆運動の引き金となった渾身のメッセージドキュメント。

【DISC 8】



『子どもたちと生きるために 福島の教師たち』(40分)

制作: 湯本雅典 撮影期間: 2012/5~2013/1

場所: 福島市、郡山市、南相馬市、伊達郡川俣町

震災後1年半がたち、福島の学校はどうなっているのか? 避難区域外では、屋外活動制限の解除など、震災前と同じ状況が作られていく。教師たちは、子どもたちに「これからどう生きていくのか」を一緒に考える立場に立ち、実践を始める。

【DISC 9】



『磐城壽しぼりたて23BYがあなたの杯にそそがれるまで』(30分)

制作: 坂本博紀 撮影期間: 2011/10~2012/6 場所: 山形県長井市

浪江町にある100年以上歴史のある酒造が津波被害と原発による避難で山形県長井市で酒造りを再開。そこでの最初の酒造りを追ったドキュメンタリー。

いわきぼうけん映画祭いわき部門グランプリ受賞。

※【DISC10】は別紙となります

【DISC 11】



『Acceptance』(26分)

制作: 竹内均 撮影期間: 2011/3-20~2011/8/30 場所: 茨城県取手市

東京電力の福島原子力発電所の事故で、同県南相馬市などから120人が避難していた取手市白山の取手競輪場避難所。同原発から20km圏内に自宅がある元原発作業員の佐藤誠治さん(70)は、事故直後、次男夫婦も含め家族7人で南相馬市内の避難所に避難していたが、その後、次男夫婦は新潟県内に避難し、家族離ればなれに生活している。

【DISC 12】



『忍び寄る原発—福島苦悩をベトナムに輸出するのか—』(33分)

制作: 中井信介 撮影期間: 2011/8~2012/3

場所: ベトナム・ニントゥアン省/福島市渡利地区

福島事故による汚染は拡大し続けているが、政府は原発技術の輸出を推進している。建設計画が進むベトナムの地域住民たちは、原発や福島事故を正しく理解しているのだろうか。また、建設に対してどのような思いを抱いているのか。建設予定地を訪ねた。

【DISC 13】

『相馬高校から未来へ』(8分)

『大塚神社奉納神楽』(8分)

『つなみのあと』(3分)

制作: 相馬高校放送局

【DISC 14】



『3.11からの埋み火』(18分)

制作: 佐々木直子、かん澤沙織、天沼達彦、金杉恵

(OurPlanetTV 映像制作ワークショップ作品)

かん澤沙織。福島県郡山市から東京へ避難し、震災から2年目の2013年3月に福島へ戻る決断をした。一方、かん澤さんの周りには彼女とは異なる選択をした人もいた。それぞれが決意に至った2年間の気持ちの変化を追った。

【DISC 15】



『子どもたちを放射能から守れ 福島のだたかい』(37分)

制作: 湯本雅典 撮影期間: 2011年4月~2011年6月

撮影場所: 福島県福島市、郡山市、いわき市、東京都

2011年3月の福島第1原発の爆発は、放射性物質を大気中に拡散させた。国や県はそれを放置し、学校、保育園等の即時の放射線値測定を怠った。その危機を察知したのは、親であり教員たちであった。文部科学省は4月19日、学校等の放射線暫定基準値として20ミリシーベルト/年を発表。一方、福島親たちは、「子どもたち放射能からを守る」を合言葉に立ち上がった。